

「グローバルCOE」採択特集 第1回「演劇・映像の国際的教育研究拠点」 — 演劇博物館 —

文部科学省が公募した「グローバルCOE」に、本学からは私立大学最多の4分野4拠点が選定されました。特集第1回目の今回は、選定された教育研究拠点のひとつ「演劇・映像の国際的教育研究拠点」の拠点リーダーであり早稲田大学演劇博物館館長の竹本幹夫教授に、上記プログラムの意義と抱負についてお話を伺いました。

演劇・映像研究の統合を目指す

上記プログラムは平成14年度に「21世紀COE」として採択され、過去5年間にわたって実施した「演劇の総合的研究と演劇学の確立」の成果を継続的に発展させ、さらに新しい視点から研究・教育における成果を目指すものです。演劇研究と映像研究とを統合した、さらに大規模な国際的演劇教育研究拠点の構築を目的とし、人材育成にもより力を入れていきます。「21世紀COE」の成果が認められた形でさらに今後の目標設定に関して評価をいただいており、通算して10年という大型の予算交付となります。

「21世紀COE」の主な研究成果として、資料収集や各分野の基礎研究が確立できたという点が挙げられます。また、大小おおよそ年間150回ほど、延べ558回の研究会や講演会などを開催しており、このことが海外の研究者との交流を促進する結果となって教育にも良い影響を与えました。本拠点の大きな特徴としては、学内に限らず世界各地から優秀な人材を特別研究生として受け入れたところでしょう。5年間で144人の研究生を受け入れましたが、内76人が諸外国を含む他大学の学生でした。彼らの大部分がここ数年のうちに学位を取得すると予想され、「21世紀COE」の成果が「グローバルCOE」の中で次々に実を結びと確信しています。

21世紀COE 人材育成実績

特別研究生制度

- ・研究成果発表会、博士論文成果報告会 計8回
- ・演劇センター紀要に査読論文を掲載
紀要Ⅰ～Ⅸ 計113本
- ・海外から特別研究生を受け入れ 14カ国 26名
- 5年間で144名受入(他大学生76名)

博士学位取得者
計16名
専任研究職就職
計13名

若手研究者に対する経済支援

- ・客員研究助手雇用 計13名
- ・特別研究生個人研究プロジェクト制度 計7名

海外留学を奨励

- ・客員研究助手海外研修制度 計8名(研究者として6ヶ月海外の大学で研修)
米・コロンビア大学、コーネル大学、オハイオ州立大学
英・ロンドン大学
独・ベルリン自由大学

▼特別研究生受入数の推移



世界トップレベルの拠点へ

同プログラムの5年後の成果として、教育、研究、人文科学の再構築と大きく3つに分けて目標を設定しています。

教育の成果としては、博士学位取得者数70人という目標を設定しています。「21世紀COE」の成果として、研究機関へ13人の就職者を送り出したことが挙げられますが、「グローバルCOE」ではこの数をさらに増大させたいと考えています。尚、文系の博士学位取得者でかつ演劇・映像の分野において研究職に就くことは、非常

▼拠点の継続的発展



に狭き門であることを申し添えておきます。研究の成果目標を、演劇・映像分野の世界的研究拠点として定着をはかること、海外研究機関とのネットワークを一層確立することに設定しています。人文科学の再構築に関しては、演劇学・映像学を人文科学の主要分野として認知させること、演劇・映像の社会的有効性を研究成果の公開を通じて広く訴えること、演劇を中心とする文化拠点の構築、この3点を目標としています。

研究内容の面から見た新しい視点としては、演劇と映像の2本立てにしたことが挙げられます。これまで映像に関しては演劇の一部と位置づけ、専任教員も少ない現状でした。しかし逆に映像学に対する学生の需要は演劇学よりも大きく、メディアとしての影響力も注目に値します。演劇と映像との本質的な相違として、映像には演劇に存在しないテクノロジーの問題があります。しかし両者にはまた、通有する部分もきわめて多くあるのです。また早稲田大学には、映像関係の研究・教育拠点が複数存在し、それらを統合するとわが国最大の映像拠点となるほどです。そうした環境を背景に、演劇・映像が両輪として研究を進展させることが、われわれのグローバルCOE事業の大きな特色になると確信しています。

「人文科学系分野」採択の意義

これまで大規模共同研究によって成果を上げてきた自然科学系の分野に比して、個人研究という形で深められることの多かった人文科学系の分野で、大型予算の下、組織力を生かした大きな研究成果を追究するという点にも、今回の採択の大きな意義があります。富国強兵を目指した近代以後、人文科学に対して大規模な補助金が投じられることはほぼ皆無といってよい状況でした。だからCOE事業に人文科学分野が存在すること自体が特筆すべきことなのです。実学を旨とする早稲田においては、従来実学とはみなされていなかった、いわば虚学に等しい演劇・映像の分野で、現実には早稲田出身者が大きな社会貢献を果たしてきました。そのような実績の延長上に、われわれが「演劇・映像の国際的研究拠点」として採択された事実があるのです。

新しい文化の創出を

我々の社会的責任において、今回の「グローバルCOE」で目標として挙げた研究成果のすべてを達成しなければなりません。われわれは予算・人事・研究評価の各点についても、透明度の高い公平なシステムを導入しています。そうしたシステムが、戦略目標の達成の成否を決定づけると考えています。これまで人文科学の置かれてきた立場を考えると、この拠点から新しい文化を創出するという覚悟がなければ、受けてはいけない研究費だと強く感じています。人文科学における新しい研究のあり方を確立しつつ、大学と一体となって日本の文化を推進する、それくらいの気概をもって臨む所存です。

(広報室)